

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を会議や引継ぎ等で振り返り、ホームが目指すサービスの実現につとめている。	理念については来訪者の目にふれるように、玄関ホールと各ユニットの壁に掲示し理解を促している。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明している。新人職員の面接の際にも「自分が入りたくなる施設となるよう、また、利用者に頼っていただける職員でいるには」等、理念に沿ったホームとしての取り組み姿勢を細かく話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住民と挨拶したり、花、野菜を頂くなどの近所付き合いもあり、ボランティア活動にも積極的に参加し、区への働きかけも行い、職場体験も依頼があれば何時でも受け入れられるようになっている。	開設以来、区費を納めている。日々の散歩の途中、地域の人々と挨拶を交わしたり、近所の方が来訪しお茶を飲まれ話をされていく関係が出来ていたが、昨年春以降の新型コロナ感染拡大の影響を受け難しい状況に陥り残念な状況が続いている。新型コロナ収束後には、また、積極的に地域との関わりに力を入れ取り組んでいく予定で、合わせて中学生、高校生の職場体験の受け入れも積極的に行う予定でいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者の家族を中心に、認知症の勉強会等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市職員、介護相談員等の出席を得て、運営推進会議用の広域連合の様式により意見・要望・質問を受け、ホームの運営に活かしている。	家族代表、広域連合職員、民生児童委員、介護相談員、ホーム関係者の出席で定期的に開催している。現在は新型コロナウイルスの影響を受け書面での開催となり、利用状況、職員状況、事故報告、防災関連、行事計画などの報告を書面に纏め、参加メンバーに郵送し意見は電話にて伺うようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催する研修会に参加し、必要な情報交換を行うとともに、必要に応じて窓口、電話にて助言を得ている。	市高齢者保健課には「新型コロナの感染対策」等、様々な事柄について相談している。介護相談員の月1回の来訪を利用者も楽しみにしていたが現在は中止という状況が続いており、収束後の再開を楽しみにしている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し行われ、職員が対応している。市主催の研修会には積極的に参加し支援の向上に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月一回の職員会で勉強会を行い、また特別委員会を立ち上げ、研修、勉強会を行い、その結果を再度職員会に戻し、問題点の共有を図り、入居者が心地よく暮らせる環境を整えている。	ホームの方針として拘束のない支援に取り組んでいる。外出傾向の強い利用者があるが玄関は日中開放されている。職員がきめ細かく所在確認を行うことで安全の確保に繋げている。転倒危惧のある利用者があり家族と相談し人感センサーを使用されている方がいる。月1回の職員会議の席上、身体拘束の勉強会を行い意識を高め拘束のないケアに取り組んでいる。	

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事例問題を通して、いかなる行為が虐待に当たるか職員は理解しており、きめ細かい対応をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、後見制度について、専門家の講習を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、改正事項については十分な説明を行うとともに、説明会も開催し、特に、土曜、日曜日は家族の訪問が多い為、管理者等が交代で待機し、気軽に話せる機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・女子会・男子会がよく機能し、意見・要望を素直に聞く機会を設けている。	ほとんどの利用者は言葉で意思表示が出来る状況であるが、難しい状況の方については問い掛けをきめ細かに行ったり、表情を見て判断をし要望を受け止めるよう取り組んでいる。家族の面会も昨年春以来自粛状態が続いており、事前に連絡を頂き窓越しでの短時間面会を行っている。年1~2回行っている家族会ははじめ、全ての行事が中止の状態に追い込まれているが収束後には再開予定である。このような状況下、通常年4回発行している、日々の生活の様子を手書きで表した温かさ一杯の「すずらん通信」を毎月発行し利用者一人ひとりの様子を映した写真を添え、家族あてに送付し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月8日に開かれる職員会、個別面接・個人及びグループごとの食事会・懇親会を行い、意見、提案を聞く機会を増やしている。	新型コロナの状況下、少人数に絞り、主力メンバーのみで職員会議を行っている。社長や管理者よりの連絡、各種勉強会などを行い支援の向上に繋げている。毎月の給料支給日には社長、管理者による個人面談が行われ、目標の確認や意見を吸い上げる場としている。また、各種資格取得についても会社として費用面の援助も行い、応援する体制を整えている。更に、毎年、福利厚生で温泉地を中心とした旅行会を行っており、今年度は中止となっているがコロナ収束後には行う予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の職員会議の後、給与の支給を行いながら意見交換を行い、能力向上について積極的に資格取得など、支援することを伝えている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の希望を取りながら、資格取得、研修会の費用を含め応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の仲間と交流、研修会の仲間との交流が続いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームを見学していただき、お茶を飲みながら要望等を聞き、家族の方にも同席していただきながら、本人の希望を聞く機会を増やしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に数回にわたって、家族の要望等聞き、家族との信頼関係構築に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容を的確に見定め、必要な場合には他の施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、介護されるではなく、規律の中にも友達に近い関係を維持している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは良好な関係ができており、気楽にものと言える環境にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、親戚の方々の出入りが多く、又、暑中見舞いや年賀状、すずらん通信等を通して近況報告を行なっている。	通常であれば友人、知人の来訪が多くあるが、現在は新型コロナの影響を受け自粛状態にあり、収束後再開する予定である。家族に対して暑中見舞いはがきと年賀状を利用者の写真入りで作成し家族にお届けし感謝されている。理美容についても新型コロナの影響で外部よりの受け入れが難しく管理者が代わりにしている。	

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が仲良く、他入居者の世話をやいている。孤立しないように職員も関わりを深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話等を通じて近況をお聞きしたり、必要に応じて相談等に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で、思いを聞いたり、家族との話し合いの中で希望や、意向を確認している。	利用者との良好な関係作りに心掛け、意思表示の出来る方も多く、基本的には声掛けをきめ細かく行い意向を受け止めるようにしている。好きな飲み物選びや入浴後の洋服選び等についても幾つか提案をして選んでいただくよう心掛けている。日々の気づいた言動等は介護記録に纏め、職員間で情報を共有し、利用者が望む支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、認定調査等の情報に基づいて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の能力に応じて、家事手伝いなど、出来ることは積極的に応援し、個性に応じて支援しながらその把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族との話し合い・職員会議・担当者会議を経て介護計画を作成している。その結果を家族にフィードバックし、再度、会議を通して作成している。	入居時にホームでの暮らし方(穏やかに元気で暮らしてほしい等)の希望について家族よりお聞きしている。入居1ヶ月間は生活の様子を見て利用者のことを把握し、また、家族にお知らせし最初のケアプランを作成している。3ヶ月～半年に1回、職員会議や引継ぎの時に職員の意見を集約し代表と管理者が家族から聞いた希望も加味しながらプラン作成を行い、利用者一人ひとりに合った支援に取り組んでいる。基本的には6ヶ月に1回の見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕方の引継ぎを通して情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝・夕方の引継ぎで問題点を把握し、臨機応変に対応している。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域マップを活用し、入居者が豊かな暮らしができる支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回往診時に家族が出席できる体制があり、24時間連携可能な状況にある。	全利用者がホーム協力医の月1回の往診を受けている。協力医については24時間対応で、LINE、メールなども含め常に連携が取れる関係が保たれている。また、准看護師が常駐しており、日々の健康管理に合わせ医師との連携が取られている。歯科については月1回の協力歯科の往診で対応しており、定期的に歯科衛生士の来訪もあり、利用者の口腔ケアと合わせ職員の指導もして頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の報告は管理者にすべて報告され、それを踏まえて担当医に連絡する体制ができ上っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーを通して情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期意向確認書、事前指定書により、家族との話し合いを行い、家族の希望や医師の意見を聞きながら終末期ケアを行い、看取りはホームで行うこともある。	重度化、終末期の取り組みについての指針があり、利用契約時に説明を行い家族の意向も聞き、終末期意向確認書を頂いている。終末期に到った時には家族の希望を再度確認の上医師と連携を取りながら医療行為を必要としない看取り支援に取り組んでいる。開設以来6名の方の看取りを行い、家族は数日間利用者と共に最期の時間を過ごし感謝の言葉を頂いている。また、職員会議の席上看取り経験のある職員が講師となり看取り勉強会を行い心構え等を学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	諏訪広域消防署の協力を得て、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を随時行い、消防計画も消防署に提出し、火災報知機、防災無線等の設備も整っている。地域にも協力の依頼を行っている。	今年度は新型コロナウイルスの影響を受けホーム内部で災害対応、避難場所の確認、防災機器の確認等、対処の仕方を職員一人ひとりが把握し確認を行った。来年度は消防と連携して防災訓練を実施する予定である。備蓄は「米」「水」「缶詰」「介護用品」「トイレトペーパー」等が1ヶ月分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人として尊重され、尊厳を維持することを職員はよく認識しており、尊敬の念をもって接している。	言葉遣いには特に気配りをし、優しく、柔らかな声掛けを意識している。また、トイレ誘導等、本人にとって嫌なことは他の利用者にわからないように配慮している。呼び掛けは下の名前を「さん」付けて親しみを込めお呼びするようにしている。入室の際にはノックと声掛けを忘れないように心掛け、リビングホールに利用者がある時には一言声掛けをしてから入室するようにしている。年2回、社長が講師となり「例」を挙げながらプライバシー保護についての勉強会を行い、意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	近くに寄り添う時間を多くし、話しやすい環境をつくり、悩みや思いを聞いて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の状態や、ペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	専門の美容師や各職員が積極的に関わっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はすべて手作りであり、利用者と一緒に作ったり、後片付けも一緒に行っている。一人一人のペースに合わせて、ゆっくり食事を楽しんでいる。	全介助の方が若干名、見守りで自立の方が三分の二弱という状況である。季節のものを意識し、野菜、肉、魚のバランスを考え週3回買い出しを行い職員が調理をしている。食べた物を記録に残し、近い日のメニューと重ならないように意識し調理に取り組んでいる。また、バランスを考え食材の買い物をしているのでその食材は残さず使い、栄養バランスの取れた食事づくりに心掛けている。肉、魚を用いたメイン料理は夕食に重点を置き、昼食はパン、麺類中心に提供している。行事の際には「おはぎ」「チラン寿司」等、季節の料理を楽しんでいる。お手伝いは利用者の力量に合わせて下準備、テーブル拭き、後片付などをしていただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量・水分量の記録を行い、対応している。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	担当歯科医師指導の下に、毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄時間を記録し、各入居者の排泄状況に応じて声掛けしている。	全介助の方は数名で、大半の方は一部介助でリハビリパンツとパット使用という状況であるが、全利用者がトイレでの排泄に取り組んでいる。職員は介護日誌の中に一人ひとり排泄状況を記録し、排泄パターンに合わせ声掛けを行いトイレに誘導している。また、起床時、おやつ時、食事前後、就寝時にも定時の声掛けを行いスムーズな排泄に繋げている。更に、排便促進のため1日の水分摂取目標を1,000cc以上に定め、「お茶」「ヨーグルト」「乳酸飲料」「ジュース」等の摂取を勧めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養のバランスを考えた食事の提供、無理のない範囲内での運動参加を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は概ね決めてあるが、必要に応じて適宜対応している。浴槽は広くゆったりとした気分で入れる。	職員二人で介助する方が若干名で、他の利用者は一部介助という状況である。入居時、家族に入浴状況について確認をし、利用者一人ひとりの希望に沿った入浴に繋げている。基本的に週2回入浴を行い、希望により3回入浴される方もいる。入浴拒否の方もいるが、日を変えて対応している。入浴後はジュース等、好きな飲み物を楽しみ寛いでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間熟睡できるよう、昼間の時間の過ごし方を重視して個々にそった関りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用途・用法については理解している。症状の変化にすぐに気が付くよう、注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の出来ること、やりたい事に合わせ工夫をしながら楽しんでもらえるように関わっている。		

グループホームすずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩をしながら近くの公園へ出掛けたり、職員と一緒に買い物に出掛けたりしている。長く歩けない入居者はドライブをして楽しんでもらっている。	外出時、自力歩行の方、手引きと歩行器使用の方がそれぞれ三分の一弱で、車いす使用の方が若干名という状況である。現在は新型コロナの影響で買い物等の外出も難しい状況であるが、天気の良い日には広い敷地内を散歩したり、中庭に出てお茶を楽しんだりしている。また、花見の季節にはお菓子和飲み物を持参し、近くの公園まで出かけている。更に、トイレのある場所を選び、時折ドライブに出掛け気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお預かりしているお金を持って買い物に出掛けて、お菓子や飲み物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状など、毎年職員が入居者と一緒に作成し、電話等も希望があればかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは居室と同じく床暖房で、天窓から光が差し込み明るい雰囲気を出している。ソファ横の大きな窓からは四季を感じ取りながら過ごされている。	豊かな自然に囲まれ開放感漂う広い敷地にゆったりとしたホーム建物があり、恵まれた環境の中で日々の生活を送っている。綺麗に整理整頓され季節の飾り付けが施された玄関ホールに入ると「目指せ100歳のモニュメント」が目に入りホームの取り組み姿勢を垣間見ることができた。ユニット間に設けられた広い中庭には家庭菜園があり、テーブルとイスも置かれ天気の良い日の寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー・ウッドデッキ・中庭など、好きな時間やタイミングで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	キルトの表札や障子の小窓があり、居室には自分の好きな物を持ち込んで、整理整頓された空間の中で過ごされている。	整理整頓が行き届いた各居室には洗面台と大きなクローゼットが完備され暮らし易い造りとなっている。陽当たりの良い窓からは四季折々の自然が感じられるよう工夫がされている。持ち込みは自由で、使い慣れた家具仏壇等が持ち込まれ、また、家族の写真等に囲まれ、利用者が思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい掲示や案内板を通して、安全に過ごされるように工夫を行っている。		